


ともべ保育園												ともべ保育園 事業実績報告（2024年度及び中期計画期間）											
	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（2020～2024）						主な取り組み（2024 年度計画）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等													
					2020	2021	2022	2023			2024												
2 教学改革計画	円滑な業務移管の推進		入園定員充足率 (%)	0 歳					200	・当面は笠間市子ども福祉課との連携を密に図りながら、市立ともべ保育所の保育の流れを継続していくことで民間移管による不安を払拭し、安心して預けられるよう丁寧な保護者対応を行うなど保育の充実を図る。 ・市こども育成支援センター及び民間の発達支援施設と連携を図りながら、個別支援が必要な園児及び家庭への支援の充実を図る。 ・茨城女子短期大学保育科の保育実習のほか、地域の小中学校との連携を深め中学生のインターンシップを受け入れるなどにより地域交流を推進し開かれた保育を行う。 ・年間行事や自主事業については、従来実施してきた行事等を基本とするが保護者の要望等を踏まえながら検討する。 ・菜園を新たに整備し野菜を育てるなど実体験を踏まえた食育を行い、食への意識を向上させ発育を促す。	・笠間市との連携を図り、公立の保育引き継ぎ大幅な変化による不安がないよう対処し、保護者からは一定の理解を得られている。 ・特別支援については、育成支援センター及び児童発達支援機関等との連携を密にし、支援が必要な家庭へのサポートの充実を図っている。 ・今年度は短大子ども学科からの観察実習を名、保育実習2名の受け入れを実施。高校からは保育体験2名を受け入れた。 ・行事等については、従来の流れを基本としつつ学園としての特色を織り交ぜて実施。職員間の認識共有に課題があったが、積み重ねにより改善できてきている。 ・実体験を踏まえた食育を通して、食への意欲や感謝に想いが向けられるようになってきている。また、園児を通して保護者・家庭を巻き込む活動にもつながった。さらには、菜園整備においては、学園・地域の方々の協力を得ながら、手探りながら取り組んできた。継続的な運営ができるよう、今後の計画が課題である。												
				1 歳					110														
				2 歳					100														
				3 歳					80														
				満3 歳																			
	保護者の信頼確保			4 歳					65														
				5 歳					100														
				合計					93														
	魅力ある保育園創り																						
3 学生募集対策と 学生数・学納金等 計画	安定的な定員確保	園長	入園者数	0 歳児					6 / 3	・笠間市と協議し、各年齢の児童数のバランスを保ちながら、定員確保に努める。 ・HP、ブログを活用しながら情報発信し、保護者との信頼構築に繋げる。また、園関係者外、入園検討対象家庭へのアプローチとなるようにする。	・未満児については、1 月末時点で定員数を超えている。特に0 歳児については年度途中での入園希望も多い。一時預かり事業の利用を通して入園につながるケースも多い。 ・以上児については定員を満たせなかった。在園児の流出を防ぐとともに、引き続き情報発信等などを通して、園児数の安定に努める。												
				1 歳児					14/12														
				2 歳児					15/15														
				3 歳児					16/20														
				4 歳児					13/20														
				5 歳児					20/20														
				合計					84/90														
4 人事政策と人材 育成、人件費の削 減計画	学園内からの異動職員 と笠間市からの継続勤 務職員の連携強化	園長・主任								・各園の研修や、公開保育などに積極的に参加できるようにし、職員間の情報共有をしながら保育の質の向上に努めていく。 ・研修主任を中心として園内研修の体制づくりを進める。 ・茨城女子短期大学の講師による保育助言の機会を設ける。 ・自己研修及びキャリアアップ研修受講促進。 ・県保育協議会等外部研修などへの積極的参加	・年度当初、連携には難航したが、一つ一つの活動・行事を進める中で異動者、継続者ともに対話を積み重ねて互いの理解に努めた。 ・園内研修においては保育の方向性の共有を最優先とした。学園内の各園の研修等に参加しながら、体制づくりを実施。 ・自主的な研修受講を促すことで、正規職員のみならず、常勤・非常勤職員でも自主的に研修を積もうとする姿勢が見られるようになった。引き続き受講については学園本部の協力を得て継続していく。												
												研修主任	幼児救急法研修 公開保育参加 キャリアアップ 研修 社協研修	年1回 年6回 5名 参加 7回									

5 経費削減計画		園長・主任 事務			<ul style="list-style-type: none">・おたより類のアプリ内配信によるペーパーレス化の促進。・活動に必要な備品の借用。
6 施設整備計画	体調不良児に対応できる保健室の整備	園長		<ul style="list-style-type: none">・体調不良児事業を開始し看護師を配置する予定であるが保健室が狭いことから乳児室の一部を改修し必要な看護ニーズに対応できるよう保健室を整備する。	<ul style="list-style-type: none">・保健室の柔軟な活用を行う。体調不良児保育の利用は年間 251 名（月平均約 21 名）2025 年 3 月末時点。・3 月 14 日民間検査機関の完了検査済。保護者からの期待も大きい。・看護師 2 名の配置により，保護者はもとより保育士も安心して保育を進めることができた。（体調不良児室工事状況 2025.2.12） <div data-bbox="2205 640 2724 1161"></div> <ul style="list-style-type: none">・0 歳児受け入れによるほふく室整備のため物置を新設。（戸外トイレの解体）・電力増量のための増設工事の実施。